

学校関係者評価結果

内容	評価項目	R6年度	R5年度	総括	課題	学校関係者評価	
						満足している 3: 適切である	外部評価委員の意見
I 学校経営	1 学校は、設置者の意思・指針を明確にしている。	4.8	4.8	設置者の意思・指針はとて明確に示されており、説明会や教職員会議、また冊子などで折に触れ説明がされており理解ができています。また、3ポリシーなども簡潔明瞭に表現されている。新入職員が4名入った中で「4.8」を維持できたことは入職時ガイダンスや折々の取り組みの中で浸透していった成果である。	学校運営は教育目標達成に向けて機能している。当校の特色を教育活動により反映できるように運営していくことが課題となる。昨年から昨年度の課題であるが、会議の持ち方については、業務煩雑さの中不定期開催であったり、報告会で留まる傾向がみられ改善するに至らなかった。(議論の場として機能させたい)	4	外部評価委員の意見
	2 学校のビジョン及び実現のための目標を策定し、教職員の共通理解を図っている。	4.5	4.5				
	3 学校評価を実施し、その評価を教職員は周知している。	3.8	4.7				
	4 教職員会議などを通して、教職員は学校の経営管理に参画している。(学校経営についての情報を得て、経営的視点をもって、活動できる)	4.4	4.5				
	5 各会議は、学校運営に関する議論の場として機能している。	3.5	3.7				
II 教育課程・教育活動	6 教育目標の内容は、卒業到達目標に合わせ、評価・検討している。	4.4	4.8	新カリにおける教育課程の修正に基づき、3年間のカリキュラム運営が終了した。当校の理念から教育目的目標までの一貫性は妥当なものであるとされている。しかし、教育内容表まで振り返ると各科目の目標の妥当性については修正の必要を感じている。(特に実習における目標の設定や柱建て) 評価検討はよくしている。また、臨地実習において学生が習得すべき能力を具体的に明示し、成果のみでなく学生の取り組み姿勢等のパフォーマンスを評価できるルーブリック評価は定着し、その妥当性についても修正しつつ組んでいた。当校の6つのディプロマポリシーについて就職先アンケートでは、例年専門職としての看護実践能力(状況判断能力、問題解決能力については低値)であり、連年の大きな課題であったが、昨年に比べて各10ポイント近く下がった。さらに今年度の卒業生については7名が8月までに早期退職、2名が入職早々の妊娠で産休は発生し、就職先からは職業人としての自覚なきを指定を受けた。新たな環境に適応する努力として「他者に相談することの欠如」や「自分勝手な理由を主張する傾向」などがあることが分かった。シラバスは学生がわかりやすいように作成され、学生がもつiPad内のラーニングボールで提示しつつも確認できる情報提供手段を使っている。また、授業開始時に再度詳細指導案を提示するなど実施している。また、しかし途中での変更事項などがタイムリーに行われなかったことや外部講師の講義がシラバスとずれている部分などは課題である。終了後にその一貫性を検証することまでは及んでいない。適切な時間割においては、月単位で見ると過密な部分と国家試験学習時間が多くなったりと、外部講師優先の講義計画となり、国家試験自学自習時間が有効に使えていない。さらに時間の使い方が学生に浸透できていない。国家試験自学自習時間が授業がないので影響なく休める時間として経費されている点が問題である。	次年度から、1・2年生については自主学習時間として、時間を有意義に活用できるように設定した。その分今までの講義の間である意味自由に使える国家試験対策時間が大幅に減ることになる。このような時間割変更がどのように影響し、どのような結果となるのか注視していく。また、学習方法が確立していない学生や困難性のある学生は年々増えている。かかわりや授業方法についてなお一層充実を図る。その為常に課題を抽出しつつ一貫性のある指導方法を展開することが課題となる。さらに、講義終了後にシラバスとの一貫性について検証することが必要である。3年間を通じて職業人教育としての社会性をどのようにすれば育むことができるのか検討していく必要がある。	3	常に改善し努力していることはわかるが、相手を尊重する対応に十分に配慮してほしかった。卒業後1年目の卒業生の退職が増加したことも考える必要がある。
	7 教育理念・教育目的・目標は一貫性を持っている。	4.3	5				
	8 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正している。	4.1	4.7				
	9 シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。	3.9	4.1				
	10 効果的な授業運営のため、適切な時間割を調整している。	4	4				
	11 学生に合わせた授業内容や指導方法の工夫をしている。	3.9	4.2				
	12 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めている。	4.4	4.8				
	13 実習における患者の倫理的配慮、患者等からの同意が得られている。	5	5				
	14 実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えている。	4	4.3				
	15 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか。	3.8	4.7				
III 入学・卒業対策	16 より多くの応募者を確保することに努めている。	4.5	4.6	定員40名のところ38名と定員割れでのスタートであった。その危機感は一全教職員が持っている。その為、希望があれば説明会以外の日でも対応したり、業者依頼のガイダンスについても教職員は率先して対応している。さらに令和7年度受験生が大幅に減少を見られたため急遽、3か所の駅前でティッシュ配り(当校の紹介チラシを挟んで)を1週間実施したり、教職員の居住地域でチラシ(ポスターの小で内容を吟味したもの)を事務サイドで作成しポストイングも行った。また学校説明会の増設や随時対応などなど予定外の活動を組み入れて受験生の増加を目指した。県内及び医師会卒業生では定員割れが出ている中で当校の立地を考えると有能な現役生を確保することは容易ではない。また社会人の受験生も減っている状況もあり、対策が急務であったことと運営継続においての運営費の確保や今後の収支バランスシートを作成して学校長をはじめとして運営委員、さらには修学資金貸与施設の施設長・事務長との協議も行った。	定員確保は最重要課題である。受験者の増加に向けて新たな対策を検討する。また退学者を出さないよう、学生が「困難に對しても継続して取り組む動機づけ」を持たせる関わりを模索する。学生自らが学習したという行動で満足するのではなく学習した結果どうだったのかを認識し、学習行動に移れるような教材選択としてメディックメディアを継続することとした。次年度設定する自主学習日の出席課題としての活用、日々の12:45分からの学習課題などコンパクトにコツコツと活用させていく方針である。就職支援は継続し、全員が看護師として就職することを目指す。	3	35期入生の入学生がかなり少ない。定員確保に向け今以上に取り組みをお願いしたい。社会経験を踏まえても入学生確保や当校の学生の責務、学力から国家試験合格を維持することには大変な努力が必要となるであろう。県内の他業種への現状を見て今後も改善するであろう。当該区内の就職率は高いのは喜ばしい。
	17 国家試験に向けて、学生にあった指導・援助を行っている。	3.8	4.7				
	18 中途退学者を少なくする工夫・努力をしている。	4.1	4.6				
IV 学生生活への支援	19 卒業生の当地区医師会内の就職率を高めるよう努めている。	4.5	4.9	連年の模試や補修講義については学生のレベルに応じて講師(業者)の選択、追加補習を実施した。また、今年度はフルプランを活用させたりと自分で主体的に学習できる機会も増やした。また後半では集団学習の効果狙い教員が担当するなどの機会を設定した。そのことが4.4から4.7へ増加した理由と思われるが、結果は4名の学生が合格に至らなかった。学習方法が確立していない学生ほど集団に入らず国家試験対策時間を欠席し自宅で学習する傾向があったり、一人学習で孤立したという傾向が見られた。年々学力が低下している中で、言われたことを行動化しない。正しく学習できないことが原因であり、当校の場合は3年間をかけて知識を積み重ねていくような学習環境を作る必要性があり、日々の学習の強化から始める必要がある。今年度無料の「メディックメディア」へ変更を見た。来年度はより活用する計画のもと継続することとなった。「1」ポイント近い低下は、取り組みに対して、行動化(参加しない)しない学生の存在に、学生のあった指導ではないのではという自問への結果であると思う。退学者数は減少している。今年度は6名発生。退学者理由は学力不足が2名、意欲低下の1名も単位が取れない看護の意欲低下であり、学習についていけないことが大きい(影響している。その他は経済的理由、2名は進路変更ではあるが、入学時の段階での看護師志望がすでにあいまいな中親にも言えずに連絡を絶つての長期欠席を経て退学となっている。他学生から伝え聞く情報によると学校に伝えている悩みと学生がすでに他に興味をもって行動を起こしている現状に乖離があり、入学時の全入の問題が、基礎学力低下による学習内容の理解困難や他に興味がある中で看護師に簡単慣れしてしまうという錯覚が継続困難を引き起こしている。卒業生36名であった。うち当地区医師会就職率69.4% 実習施設就職19% (小川日赤7名)であった。この成果は、当校の理念が学生に浸透していることや修学支援制度の効果と実習施設として場を提供し良い看護のモデルを示していた結果ととらえる。ただ看護師候補の専門学校として今年度2名が就職を未定にした。そのうちの1名は看護師なりたくないという。3年間の教育の中で少くとも卒業時に自分の看護師像を描ける学生を育てたいと考える。	すべての活動が成果に結びつくことを目指す。	0	
	20 学習への支援をしている。	3.9	4.5				
	21 学生の健康管理を行っている。	3.6	4.8				
	22 学生生活・進学・就職に関して学生の相談に応じしている。	4.6	4.8				
V 管理運営・財政	23 就職困難学生に対する相談の支援をしている。	4.3	4.7	支援は十分していると捉えるが、教員が思う支援と学生や保護者が描いている支援の内容方法に乖離があり、効果的な学習行動までに時間を要したり、負の感情が発生している。昨年度に引き継ぎ同学生のクレーム対応に苦慮したが管理者を窓口とする都度対応はできていたと判断する。然し同内容で黒いクレーム電話をしたというケースが発生。その点についても十分な資料と説明をもって納得していただけた対応をあらかじめ継続し卒業まで導いている。学生の自己内省に至らず感情で対応する場面に、毅然と事実を伝えつつ丁寧に根拠よく関わっていくことも学習方法とそのための学校の工夫している視点を理解させるとともに、自己責任の意識を持たせたい。「必要時、適正な相談や指導が受けられる」という設問に、そうおもわな、全くそう思わないというマイナスの回答について今年度の在校生アンケートでは27.8%で特に2年生のマイナス評価が42.4%まで及んでいる。このことは1年生の学習不正の示唆や技術教育でのかかわりの頻度、3年生の年間を通じての実習指導など評価に比べて2年生への時間的接触が少ないことが誘因となっていると考えられる。保護者アンケートでは教員の「自主的な学習のサポートをしていると思う」「臨地実習中のサポートをしていると思う」について今年度25%から35%のマイナス評価があった。自由記載では「納得いくような答えが返ってこない」「もっと理解できるように」「感情的である」「指導内容が古すぎる」などなど厳しい言葉も聞かれた。当校の学生は学習の支援を答えを教わることととらえている傾向が強く、学習方法や調べ方、ひいては教科書のかみ砕きまでしながらの支援となっている。このことがとすると依存行動へと置き換わる傾向もあったり、GWでもレスポンスがないなど成果に結びつかないことに苦慮している。	教員の教授活動に対するスキルアップを図るとともに、連絡報告相談を密に日々の教育指導場面の対応の共有をする。また教員間でチェック機構を働かせ指導方法や「15」についての意識を持って対応する。	3	学習方法が確立されていない学へも指導は大変だと思うが、継続した支援をお願いしたい。
	24 学生主体の活動に対して支援をしている。	3.5	3.8				
	25 予算計画・年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・管理を行っている。	4	4.9				
	26 学生・非常勤講師や教職員の個人情報管理及び情報のセキュリティ対策は整備されている。	3.9	4.5				
VI 施設設備	27 校舎内の安全管理・防災対策は整備されている。	4	4.5	コロナウイルス感染症及びインフルエンザの流行においても単発での発生でとどまりクラスターはなかった。しかし今年度は自己の健康管理不足による安易な体調不良や他の体調不良に対して長期化させている学生もいた。その都度関わった教員や学年担当の指導場面を埋めると適切な対応であったと思う。その為今までの家庭での生活習慣の改善まで指導している場面が見受けられた。またカウンセラーの存在は、1年生4月、2年3月と個別面談を実施していただいたことでも周知できた。1年生では卒業に対する不安が10件、2年生は実習に対する不安5件を含め連続、卒業への不安17件であった。、続いて同学年とも人間関係での悩みが表出が見られていた。また健康診断結果に基づく受診行動の促しや予防接種などの対応も年間を通じて適宜対応指示できていた。	地域活動や各種行事、国家試験対策自主学習の時間などの欠席が目立つ。その為地域イベントなどは当校の理念に基づき教化外活動(出席すべき日数)として明文化しその意義を十分説明したうえで計画的な指導と主体的活動へと転換させたい。令和7年度設定する自主学習日を効果的に活用できる計画性や時間管理能力育成を図る指導を展開していきたい。	4	引き続き収支を見据えた管理執行をお願いしたい。
	28 学校運営に学生の意見が反映されるよう努めている。	3.9	3.8				
	29 校舎は常に整備され、不備なく機能している。	4.8	4.5				
	30 教育目標達成に必要な備品及び新しい教材が整っている。	4.4	4.6				
VII 教職員の育成	31 学生のために、休息・観望及び交流を行うためのスペースが設けられている。	3.9	4.8	各担当から予算を出してもらうことで、担当としての予算執行意識や、急な支出を抑えることができる。また評定から見ても教職員が経営的視点をもって取り組む意識があることがわかる。ICT環境の整備と経費は一定の支出を見込めなければならない。外部からの緊急支援の補助申請は該当の有無を常に精査し適宜予算執行管理できている。今後の収入減についての動向もなお一層注意していく必要がある。	予算は適正に管理執行されている。基本収入の収入減は確実に影響が出る。各項目の厳しい予算計画とより一層の執行管理を行い収支を見据えて適宜執行する。すべての教職員が日々の経営的視点をもって業務することを課題とした。学生の意見の反映については、アンケートだけでなく、学年担当のかかわりをさらに強化し意見や感想を聞き取るの気づきとなるような方策の一つとして研修を位置づけて学びの共有ができる場を作ることが必要と考える。①分野別集での検討機会を増やす。②OITの充実	3	引き継ぎ、教員の教育力が向上し、教員がより積極的に取り組むべきであった。
	32 教員が計画的に研修に参加できる仕組みがあり、新知識・技術の獲得に努めている。	4.6	4.6				
	33 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度がある。	4.3	3.6				
VIII 広報	34 ホームページは適時更新し、見やすくしているか。	4.3	4.6	学生・保護者アンケートを行い、意見を聞く機会をとっている。特に成績管理の観点では、必要に応じて保護者面談を行っているが、面談学生が固定化されてくる中保護者の情報提供方法として個別保護者金負担という意見があった。今後リモートなどの方法も検討して行く必要がある。教育指導場面で学生からのクレームが頻りに発生している。(教員の奮闘やかかわり方)。また、保護者コメントからも厳しいご意見があった。指導の場面での学生の主張・意見に各教員は以前にもまして傾聴と注意して対応していかなければならないと感じている。学生に礼節や時間管理を求めている立場として教員が自らの姿勢を自問自答しより良い対応に心掛けていかなければいけない。学年担当の役割を強化して学生の意見を把握していききたい。	正負両方の観点から入るべき課題となる。適時、情報を刷新する。その中でインスタグラムを効果的に活用する。また、広報活動としては、商業施設での地域活動とともに学内学校説明会などの運営に工夫を凝らし、1階と2階の夜間回も回数も増やす	3	断入生確保にむけ、様々な取り組みをお願いしたい。
	35 学校広報活動を効果的に実施しているか。	3.9	4.4				
IX 地域との連携	36 地域社会の貢献の一環として学校施設を開放している。	4.9	5	コロナの制限が緩和されたことを受けてよここぎ祭り、鶴ヶ島市防災訓練への協賛参加や商業施設2か所での地域イベント開催など地域に出向いた活動が今年度も開催された。地域での看護学生の活動の場があることと日頃の学びを活かしながら住民の方々と対話は、学生の学習成果ついでの実感を持つとともに人の役に立つという達成感も地域貢献につながるものだと評価している。地域への就職率が高い点も地域への還元にもなっている。さらには今年度は受験生確保のための活動に修学資金貸与施設が協力的にアイデアを出し動いて下さるなど当校へ支援をしていただいた。	地域においての活動や学校運営についてなお一層の連携を図る。	4	
	37 地域との協力関係が確立されている。	4.3	4.8				